

江藤新平

えとう しんぺい

「民権」を唱えた初代司法卿。正義を信じ、貫き通した悲運の士。

- 《人物像》
- 逆境をものともしない向上心
 - 正義を信じた一本気
 - 周りが見えない自己没頭派

Etou Shinpei

民のために走り抜けた法律家人生

八戸村に佐賀藩士の江藤胤光の長男として生まれる。父胤光は佐賀藩士とは云え、手明鎧(てあきやり)という下級武士で、日々の生活にも困窮するような家だった。

12歳の時に藩校弘道館に入学、人並みはずれた頭脳を持っていたが、学費が払えず進学もままならなかった。1850年に校吉神陽により「義祭同盟」が結成されると参加、尊王思想などを学び、仲間と議論に明け暮れる。23歳で意見書「閩海策」を書き、開国論を唱える。29歳の時に藩の方針に業を煮やし脱藩、京都に入り当時の世相をまとめるも、謹慎を命じられる。

大政奉還によって幕府が消滅すると謹慎を解かれ、郡目付として復帰。新政府が誕生すると京都に派遣される。江戸城が無血開城されると城内の文書類を接収し、当時の法令を読み解く。

そして明治5年、明治新政府において初代司法卿に就任。四民平等を説き、当時「民権」という概念がなかった時代に、民の権利を守り、誰でも公平な裁判ができるようにした。それはそれまで「お上」と言われていた役人すらも訴えられる画期的なものだった。また学制制度や警察制度整備、娼妓解放令などを進める。しかしその性急な改革が政府内の反感を買ったのも事実で、最後は佐賀の役に敗れ、鹿児島から高知への逃亡の末捕らえられ、まともな裁判もなしに処刑されてしまう。時代を違えた天才の早すぎる最後だった。

【概略年表】

年	年齢	出来事
1834	天保5年 1	2月9日、江藤助右衛門の長男として八戸村に生まれる
1845	弘化2年 12	父に従って晴家村(小城町)に移る/弘道館に入学
1849	嘉永2年 16	弘道館内書生寮に寄宿/父が佐賀代官出仕となる
1856	安政3年 23	「閩海策」を書き、開国論をとる
1862	文久2年 29	脱藩し京都に入り「京都見聞」をまとめる/謹慎を命じられる
1867	慶応3年 34	12月、閉門を許され郡目付となる/京都で活躍を始める
1868	明治元年 35	西郷隆盛と共に江戸城に入る/大木喬任と共に東京遷都を建白
1869	明治2年 36	佐嘉藩権大参事となり副島種臣と藩政改革
1870	明治3年 37	「国政改革案」など建議
1871	明治4年 38	文部大輔、左院副議長となる/廃藩置県を施行
1872	明治5年 39	司法卿となり、法制公布施行に当たる
1873	明治6年 40	参議となる。征韓論に破れて、10月参議を辞任
1874	明治7年 41	佐賀の役。薩摩、土佐と逃れ、土佐にて捕縛。4月13日没

【1889年(明治22年)賊名を解かれ、1916年(大正5年)正四位を贈られた】

あなたにとって江藤新平とは？

信念に散った、不器用な「政治家」

文化財保存佐賀県協議会 副会長
古賀 久人 さん

大久保利道がドイツ的な軍国主義を進めたのに対し、江藤はフランス的な人民主義、まず国民を裕福にしなければ、と考えていました。そんな高い人権意識、人の自発性を大事にする考え方が好きですね。もし江藤が生きていたら、後の戦争は起こらなかったのではないかと思います。しかし、正しいと思った事を貫き通す性格は「政治家」としては仇ともなり、結果佐賀の役で非業の死をとげてしまいます。近年では佐賀の役は土族反乱ではなかったとの研究もあり、今一度再評価してほしい人物です。

江藤新平を知る小説

「歳月」(上・下)

司法卿、江藤の生涯を綴った司馬遼太郎の名作。江藤の生涯と共に、その性格や人間性、また当時の明治政府の内情を知る上でも格好の一冊。他の佐賀賢人もいざいざと登場。司馬遼太郎 著/講談社 刊
上下巻 各750円(税込)



▲カメラを覗み付けるような江藤の肖像写真(佐賀城本丸歴史館蔵)



▲司法省高官とともに。前列右から3人目が江藤新平。(佐賀城本丸歴史館蔵)

ちょっと損してる？ 無愛想写真の真実

おなじみの仏頂面の江藤の肖像写真。実は脱藩し、京都に行った時に撮られた、生涯一度の肖像写真。その表情にも訳があり、京都で世話になっていた桂小五郎や伊藤博文らに言われるままに着物を着せられ、言われるままに写真を撮っている自分に腹が立っていたからだとか。それ以来写真嫌いになった江藤は、ほとんど写真を撮らなくなった。

女性観に影響？ からたち小路の屈辱

まだ江藤が若い頃、佐賀藩には大晦日に、女性らが集まって、からたち小路を歩く藩士を担ぎ上げるなどして鬱憤を晴らすという慣習があった。その日、うっかりからたち小路を通った江藤だが、女性陣はそのみすばらしい姿にたじろぎ近付いてこない。憤慨した江藤はその場で手にした「孟子」を大声で読み上げて立ち去った。後年、江藤は女性に対し、一種のトラウマを持っていたようだ。



▲からたち小路は現在の佐賀西高の南側通りだと考えられる▲

法の下には平等であれ 尾去沢事件の追求

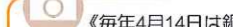
1871年大蔵省の井上馨は不当な証文で尾去沢鉦山を差し押さえ、それを私物化しようとした。銅山の持ち主だった鍵屋茂兵衛はこれを司法省に訴え、司法卿の江藤新平が追及、井上を逮捕できないまでも辞職に追い込んだ。同じ政治家相手でも追及の手は緩めない正義の人だったが、そのせいで薩長閥の恨みを買ってしまいました。

その時、江藤は叫ぶ 「裁判長、私は…！」

司法卿だった江藤は日本の裁判制度や、組織的な警察機構を整備。指名手配写真を導入したのも江藤だった。しかし佐賀の役で追われる立場になった時、その警察と手配写真のために捕まる事となり、整備したはずのまともな裁判は行われることなく、最後は司法省時代の部下の判決で、既に禁止されていた斬首刑に処されるとい、あまりに皮肉かつ悲劇的な最後。江藤には発言の権限すら与えられなかった。



▲佐賀の役で立てこもった佐賀城の門に残る弾痕の跡



▲江藤捕縛を報じた東京日日新聞の記事(早稲田大学図書館蔵)

《毎年4月14日は銅像まつり》

江藤新平の銅像
佐賀の役で捕縛された江藤や島が亡くなった4月13日には佐賀の役記念碑が建つ万部島で毎年慰霊祭が行われる。その翌日4月14日には神野公園の江藤像の前で銅像まつりが開催される。江藤や島ファンはこの2日間、佐賀に足を運んでみては。

◎ 佐賀観光協会
☎0952-20-2200

江藤新平足跡探訪コース【約2時間】(移動約80分+観光散策約40分)

モデルコース 江藤が苦悩しながらも、育ち、学んだ佐賀の暮らしを知る



金福寺

地図▶P34 A-1

脱藩した江藤が謹慎処分になっていた寺。天下国家の先を憂うも何もできず、悶々と過ごした江藤の日々を追体験。

☎ 佐賀市富士町大野916
☎ 佐賀市観光振興課 ☎0952-40-7110



実相院

地図▶P34 B-3

江藤率いる征韓党が佐賀の役の際に本營とした寺。門前には佐賀の役戦死者の慰霊碑があり、その悲哀が感じられる。

☎ 佐賀市大和町大字川上947
☎ ☎0952-62-2652



江藤新平生誕地

地図▶P35 E-8

長崎街道から少し入った所にある生家跡。今では場所を示す案内板のみ。近所の龍雲寺は小さい頃の遊び場だった。

☎ 佐賀市八戸2-5-14付近
☎ 佐賀市観光振興課 ☎0952-40-7110



本行寺

地図▶P35 F-8

正門から入ると本堂手前の左側に江藤新平の墓がある。全国からの参拝客も多く、墓碑の副島種臣の字も見どころ。

☎ 佐賀市西田代1-4-6
☎ ☎0952-24-1813



江藤新平乗船の地

地図▶P34 B-5

江藤が佐賀の役からの脱出の際に、船に乗った乗船の地。政府から負われる身になった江藤の心情が偲ばれる。

☎ 佐賀市西与賀町大字高太郎2116付近 ☎ 佐賀市観光振興課 ☎0952-40-7110

徒歩で約10分

通った藩校 弘道館跡
地図▶P35 G-8

義祭同盟の地 龍造寺八幡神社
地図▶P35 G-7

はみだし情報 「佐賀の役で敗れ有明海を舟で南下する前夜、船着き場の村女たちが途中でおなかをさがすたらかわいそうと江藤のために一晩徹夜して作ったお菓子は、「あめがた」であったことが江藤のご子孫の鈴木鶴子さんの現地調査でわかった。江藤新平と明治維新(鈴木鶴子著 朝日新聞社)は江藤ファン必読の書だ。